

とよのっこ

学校便り
長野市立豊野西小学校

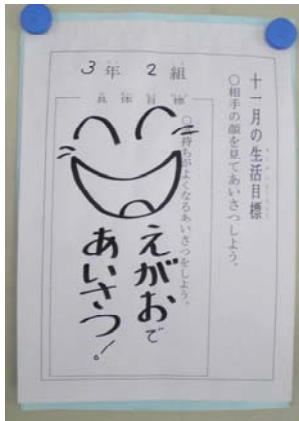
11月
平成23年度

11月 人権を考える月

今年度も11月を、人権について考え、人権意識を高める活動を重点的に行う月として取り組みました。ねらいは、以下の通りです。

人権同和教育月間のねらい

- ◎一人ひとりの問題をみんなの問題としてとらえ、いじめや差別をなくすために立ち向かっていける子どもを育てる。
- ・身の回りにある偏見や差別に気づき、それらを許さず、なくしていこうとする実践力を育てる。
- ・自分の良さや友だちの良さ、違いに気づき、互いにその良さや違いを認め合おうとする気持ちを育てる。
- ・子ども人権教室の活動を知ることを通して、仲間を支援、共に差別をなくすために歩もうとする意識を高める。



人権について考えるとき、相手との心の通い合いが大切です。心の通い合いの入り口があいさつになります。

そこで、月の前半は、学校の重点目標であるあいさつへの取り組みの一環として、11月の生活目標「相手の顔を見てあいさつしよう」を受けて、各学級や児童会でそれぞれ発達段階や持ち場を活かした、あいさつ活動に取り組みました。

左の写真は、3年生の教室に貼られた、あいさつ目標です。

児童会では、朝のあいさつ時に、「グータッチ運動」を進めました。「おはよう」のあいさつと一緒に、お互いのこぶしを突き当てることをしました。始める前は、げんこつ同士をぶつけるので痛い思いをするのではないかと心配しましたが、いざやってみると、相手を思いやって、とてもやさしくこぶしをふれあっていました。ハイタッチのような元気さはありませんが、心温まる思いがしました。

後半は **あいさつなかよし旬間** (21日(月)～12/2日(金))として、全校で取り組み中です。主な取り組みは、

- ①全校参観日(22日)
 - ・人権同和教育に関する授業(各学級)
 - ・親子人権教室(P.T.A講演会)
親子で大棟耕介(クラウンKさん)先生のパフォーマンスとお話をお聞きしました。
- ②校長講話(24日) ※裏面参照
- ③なかよし集会(12/8) なかよし旬間中の各学年学級の取り組みを発表して、お互いの学びを共有します。



このほかにも、11月中に、4年生と5年生による清風園訪問、児童会による赤い羽根共同募金等にも取り組みました。

11月のトピックス

合同音楽会 6年 10日(木)

今年は市民会館でなく、県民文化会館で行われました。学校の代表として、堂々と素晴らしい合唱ができました。

学校保健委員会 15日(火)

「子どもたちの心の健康を考える」をテーマに、考え合いました。

マラソン大会 16日(水)



写真は、元気よくスタートした5年生です。

今年は、新記録が1つ生まれました。

寒くなりました。遠くに見える志賀高原にも白い雪が見られるようになりました。冬はもうすぐそこまで来ています。

先週のマラソン大会では頑張りましたね。先生もゆっくりですがいっしょに走ってみました。みなさんが速く走れてびっくりしました。速い人だけでなく、あきらめないで走っている友達がありました。苦しいのに、速くはないのに一生懸命走っている姿がすてきだなと思いました。マラソン大会で頑張っているみなさんを見てうれしかったです。

さて、先日ヤクーバとライオンというすばらしい本を見ました。本当の勇気はどんなものだろうか、みなさんに考えてもらいたいなと思い、お話しを紹介します。(一部略)

①ここはアフリカの奥地にある小さな村。祭りの準備が始まっている。今日は御祝いの日だ。村人たちは顔を絵の具でぬり、祭りの衣装で身を飾る。成長した少年たちが戦士になる、特別な日なのだ。

②戦士になるには、たくましい勇気があることを示さなければならぬ。ライオンとひとりで戦って、たおすのだ。

③ヤクーバは谷をわたり、山のふもとをまわる。行くところは岩ばかり。木は、ぼつんぼつん見えるだけ。夜になった。ヤクーバは恐怖とたたかっていた。何かのかげがうごいたり、草木がおしおかかってくるように見えたり、風の音がライオンのほえる声に聞こえたりする。そのたびに、胃袋がきゅうっとちぢまる。ヤクーバは長いことまちぶせしていた。そのとき、とつぜんライオンが現れた

④今こそ、勇気を奮い起こして戦うときだ。ヤクーバとライオンの目があつた。ライオンの目は語りかけてくる。

「見ての通りわしはきずついている。夜通し手ごわい敵とたたかつて、力も尽き果てた。おまえがわしをしとめるのは、たやすいことだろう。」

「おまえには、二つの道がある。わしを殺せば、りっぱな男になったと言われるだろう。それは、ほんとうの名誉なのか。もう一つの道は、殺さないことだ。そうすれば、おまえはほんとうに気高い心を持った人間になれる。だが、その時は、仲間はずれにされるだろう。どちらの道をえらぶか、それはおまえが考えることだ。夜が明けるまでには時間がある。」

夜明けがせまってきた。ヤクーバは、ゆっくりとやりを手に取ると力のつきはてたライオンに、もう一度まなざしを向けた。そして、くるりと向きをかえ、帰って行った。

⑤なかまの少年たちは、みんな名誉ある戦士になった。しかし、ヤクーバに与えられた仕事は、村のはずれで牛たちの世話をすることだった。

⑥多分そのことがあつたからだろう。村の牛たちは、二度とライオンに襲われることはなかった。

ヤクーバは、傷ついたライオンをしとめれば、村のみんなから「おまえは勇気ある戦士だ」「すごいやつだ」と尊敬されます。それなのに、簡単にしとめられるライオンを逃がしました。ライオンをしとめなかつたヤクーバは、みんなから「よわむし」と仲間はずれにされてしまいました。

仲間はずれにされるのに、簡単にできるのに、ライオンをしとめなかつたのはどうしてでしょうか。

私はこう考えました。

弱っているもの、苦しみながらも一生懸命生きているものをやっつけるのは、本当は勇ましくも強くもない。この本では、ライオン相手ですが、私たちの周りにも同じことがあるかもしれませぬ。人をやっつけることができる人が強いのではなく、時にはがまんし、人のために手を貸し、正しいことができる人が本当に強い人だと思います。「仲間はずれになっちゃうから」、「むかつくから」乱暴なことをやってしまおう、ではなく「困っている人の助けになれる気高い心を持った人間になりたいな」先生はそう思っています。

